

# カリキュラム改善のための農学部学生への アンケート調査結果

新潟大学農学部教育検討委員会

## A Brief Discussion on Questionnairring for the Curriculum Operated in Faculty of Agriculture

Committee for Improvement of Education, Faculty of Agriculture,  
Niigata University

We have conducted a questionnaire on the present curriculum for undergraduate students of Faculty of Agriculture (excluded 4th graders) and got a bitter response that nearly 70% of students are more or less dissatisfied with contents of lectures, together with their discontents with any facilities offered for campus lives. Some disorganization in curriculum of specialized courses are also marked in every department (we have three departments in the faculty).

Many students realize their limited knowledges in English attained in high schools, so that they wish to have more effective English teachings in the university. Students desire fundamental lectures on natural sciences as physics, chemistry, etc.; this trend is especially prominent in higher graders for which more advanced specialized subjects are set.

Lower graders tend to rate specialized subjects difficult. Generally, students want to have higher ratio of optional credits in curriculums. A large majority expects to practice experiments and trainings in earlier academic terms.

On the whole, amounts (credit hours) of lectures and practices, both in liberal education and specialized course, appear to be accepted by most students, being moderate to study without any difficulty. Several points for curricular improvement in Faculty of Agriculture were discussed.

**Key words:** Curricular improvement, General education, Questionnaire, Specialized subject,  
Undergraduate of agriculture

### 1. まえがき

平成3年度の農学部改組では、従来の5学科を3学科に再編して大幅なカリキュラム改正を行ったが、平成5年度には教養と専門の一貫教育体制に移行し、1年次にも専門科目の履修を義務づけた。また、平成5年度末の教養部廃止を機に、教養および専門科目の履修方法・内容を若干変更している。今回のアンケートは、平成5年度から適用しているカリキュラムが、教養・専門の一貫教育の目標に照らして十分機能しているか、学生の履修意欲に対応しているか等を見直し、今後の改正への検討材料とすることを目的に、現行カ

リキュラム下で履修している1～3年生全員を対象にして調査したものである。なお、改正前のカリキュラム履修生については、平成6年度卒業生に別途のアンケートを行っている。

履修内容は3学科の各々の特色を出すために異なる点が多い。したがって、学年別、学科別にアンケート結果の分析を行うものとした。農業生産科学科（以下では第1学科という。）は動植物生産と農林経済を教育対象にし、応用生物化学科（第2学科）は農林産物の素材と加工を化学的手段により追及する分野であり、生産環境科学科（第3学科）は森林・農地等の環境と情報に関する教育を行っている。

また、必要に応じ、一般入試による入学者と推薦入学者との比較も行うこととした。

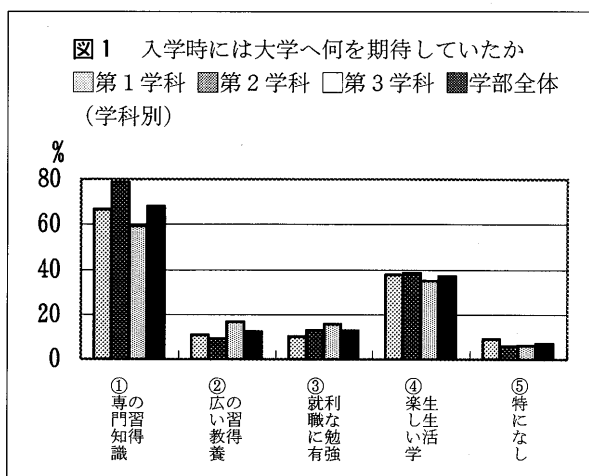
アンケートは平成7年9月の1期試験の直前に実施した。回答者数と回収率は次のとおりである。

	1 年	2 年	3 年	計
第1学科	52(91%)	49(86%)	55(89%)	156(89%)
第2学科	47(84%)	39(70%)	54(93%)	140(82%)
第3学科	42(81%)	52(95%)	55(92%)	149(89%)
学部全体	141(86%)	140(83%)	164(91%)	445(87%)

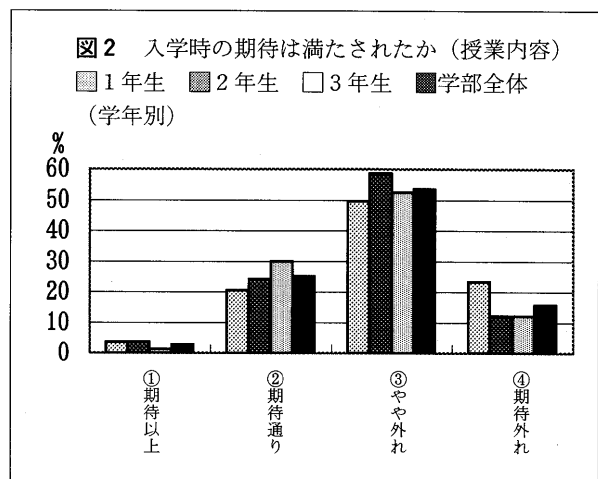
なお、選択肢からの複数回答を認めているので、以下の記述での％は回答者数に対する当該項目の選択者の割合を示し、合計値が100％を超えるものもある。

## 2. 全般的な質問に対する回答結果について

2-1 「入学時には大学に何を期待していたか」に対して、学部全体では68％が「専門知識の習得」と回答しており、専門的な知識への期待が大きかったことを示している。特に、第2学科の学生は79％がこの項目に回答しており、他の学科より20～11ポイントも高い回答率になっている点が注目される。学年別では、1年生の72％が「専門知識」への期待が強かったことを示している。特徴的な点は、「楽しい学生生活」と回答している点で、学部全体では37％にも達している。しかも、この傾向は学科、学年を問わず37％前後の高率に達しており、大学が大衆化していることを如実に物語っている。



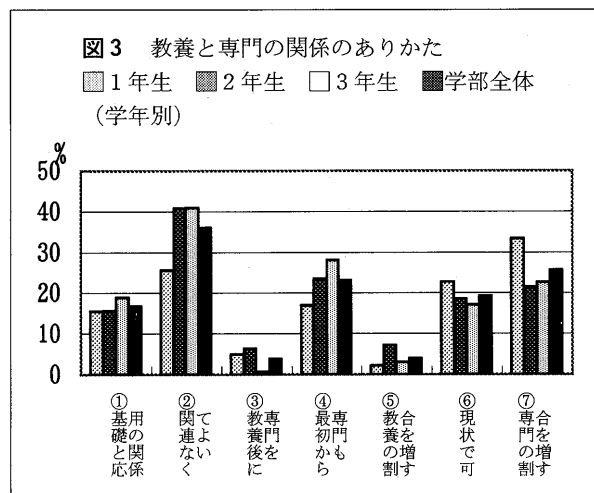
2-2 それでは、「入学時の期待は満たされたか」はどうであろうか。結果はかなり厳しい評価であった。まず、「授業の満足度」をみると、「期待はずれ」または「やや期待はずれ」という回答が学部全体では実に70％近くにも達している。こうした評価は、「施設の満足度」についてもほぼ同様で、62％が「期待はずれ」または「やや期待はずれ」であったと回答している。「期待以上」「期待どおり」という満足度合いが、授業で28％、施設面で35％であったことから判断すると、学生の失望感が非常に強いことがうかがわれ、その根源と対策を探る必要がある。



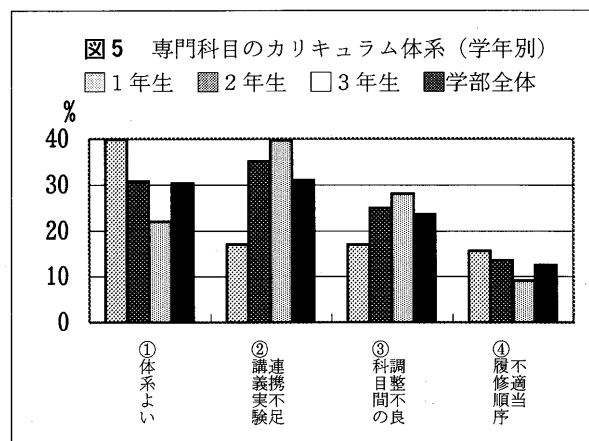
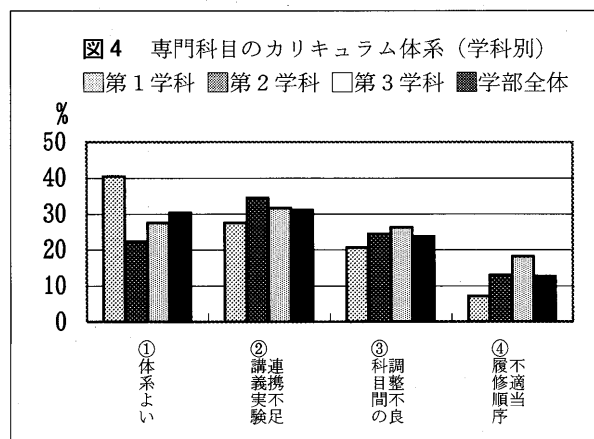
2-3 「教養科目を学ぶ意義」については、約半数が「社会人としての教養」と回答し、「専門外の概論」と「総合的判断力」を習得することに意義があると回答した学生は32％で同率であった。しかし、推薦入学した学生の場合は、「専門の基礎」としても意義があると回答しており、その傾向は、1、2年生の段階でやや強くみられた。このことは、入学初期の段階で専門との接点を思い描きながら学習している姿が浮かび上がってくる。

2-4 次に、「教養と専門の関係のありかた」についてみると、「教養は専門と直接関連しなくともよい」という意見が学部全体で36％と最も多く、この傾向は学科毎の平均値でも大差がなかった。また、「教養と専門は現状でよい」という意見も19％ほどみられ、合計55％が現在のカリキュラム構成を肯定している。しか

し、同時に「専門の割合を増やすべき」「最初から専門を学ぶべき」との意見が合わせて49%みられ、この設問に対する回答はほぼ拮抗した結果となった。



**2-5 「専門科目のカリキュラム体系」についての結果**は、かなり厳しい評価となった。すなわち、学部平均では「体系的でよい」とみるものは僅かに30%で、他は何らかの点で「問題あり」とみている。それは、「講義と実験実習の連携不足」「科目間の調整不良」「履修順序が不適切」等で、それぞれ31、24、13%という高率の回答をしている。特徴的な点は、学科と学年毎で大きく意見が異なったということである。すなわち、学科毎では「体系的でよい」という意見が、第1学科では40%であったのに対し、第2学科はわずか22%、第3学科でも28%にとどまっている。また、1年生の40%に対して、2年生では31%、3年生では22%と高学年ほど少なくなり、特に第2、第3学科では



高学年になるほど「体系的でよい」という意見が激減している点は注目される。逆に、「講義と実験実習の連携不足」が、第2学科の3年生になると56%にも達している点や、第3学科の3年生でも40%近くに不満がある点は、今後の原因究明と、カリキュラム編成にどのように活かしていくかが問われている。

**2-6 「教養の選択科目の決め方」**を尋ねたところ、70%が「自分の独自の判断」に基づいて自主的に科目を決定しており、「ガイダンスに従って」の判断は16%と少なく、また、「先輩等の助言による」、いわゆる『裏ガイダンス』の影響も23%と多くはない。判断の基準として、「内容に興味を持って」とする回答が70%を占めたが、これは、上記の自分の判断で決定とする回答数とほぼ一致している。多くの学生が講義内容に興味を感じて受講を決定したものと思われる。

**2-7 「専門選択科目をどのように決めたか」**に対しては、上記の教養科目の場合に比べ、「自分の独自の判断」に従う比率がやや低下し(47%)、「ガイダンスに従って」がかなり多く(36%)になっている。その際、判断の基準が「内容に興味ある」よりは、「専門として必要」を意識して判断する方が多くなっており、教養科目を選ぶ時の判断基準とはやや様相が異なる。教養、専門それぞれのガイダンスの密度の違い、あるいは専門教育を受けることへの自覚等が反映した結果と思われる。

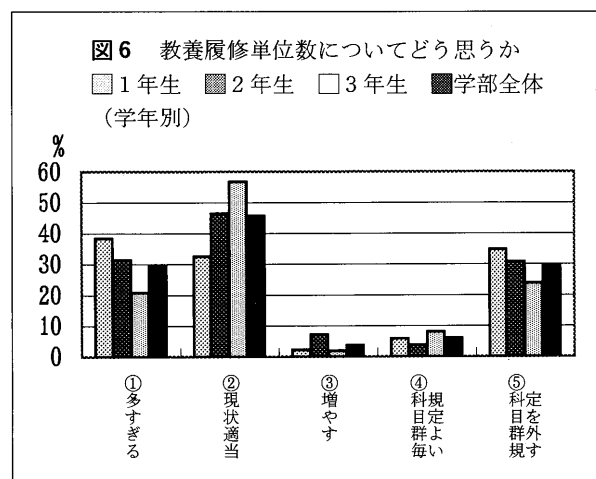
2-8 ところで、「ガイダンスや講義概要の説明は適当か」との質問に対して、

「教養科目」については、半数の回答者が、「現状で理解できる」としているとはいえ、「分かりにくい」、「科目選択に悩む」との回答も少なくない。教養科目についてのガイダンスが必ずしも十分でないことを表している。

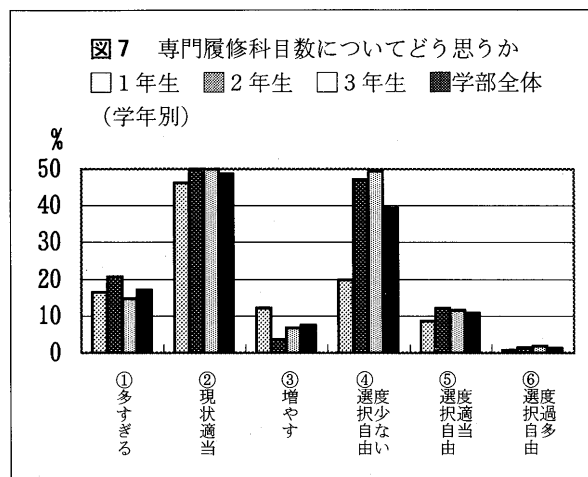
「専門科目」については、ガイダンスが「現状で理解できる」とする割合が教養科目の場合よりわずかに低く、逆に「分かりにくい」の割合が増加している。特に、第3学科でこの傾向が目立つ。学部学生に対するガイダンスをより丁寧に実施する必要があると感ぜられる。

2-9 「履修単位数についてどう思うか」では、

「教養科目」について半数近くは「現在の単位数が妥当」としているが、「多すぎる」の回答も30%あり、また、「科目群ごとの指定をはずした方がよい」とする回答も30%近い。総単位数、科目群の指定の再検討が必要であろう。

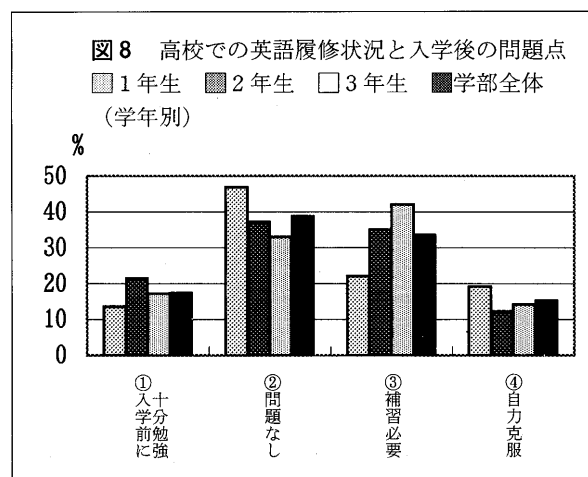


「専門科目」については、教養科目の場合よりさらに多い50%が「現行の単位数で適当」とし、一方、「単位が多い」の回答は少なくなっており、現在の総単位数(80単位)が負担となっている学生は少ないものと思われる。また、「選択の自由度が少ない」と感じている学生の割合がかなりあり、専門的教育体系の再点検が迫られている。

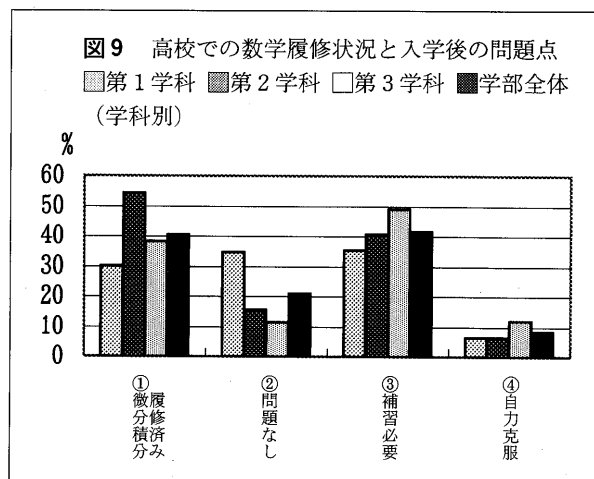


2-10 「高校での英・数・理科目の履修状況と入学後の問題点」を探る質問に関して、

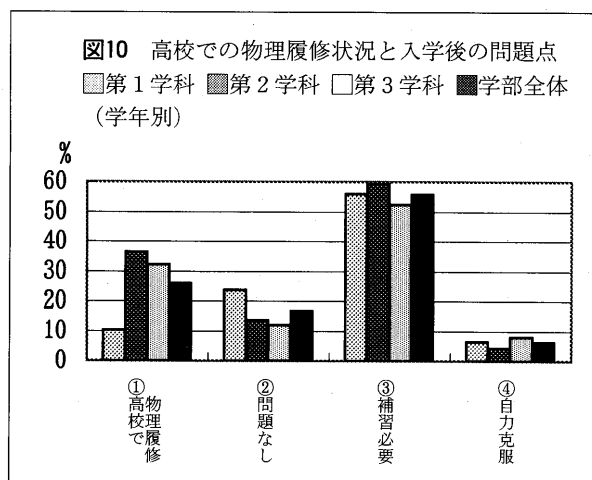
「英語」では、高校時代に十分勉強したとする回答の割合が少なく、英語が苦手とする学生が非常に多いことを示している。入学後は特別の問題は無いとしている部分も少なくないようであるが、一方、3年生においては42%の学生が補習授業を求めている。英語運用能力の向上のため、何らかの方策が求められているといえよう。



「数学」では、40%の学生が微積分を履修済みであるが、数学を特に重視する第3学科でその割合が必ずしも高くない点は重視する必要がある。いずれの学科も補習を希望する学生が英語以上に多い。



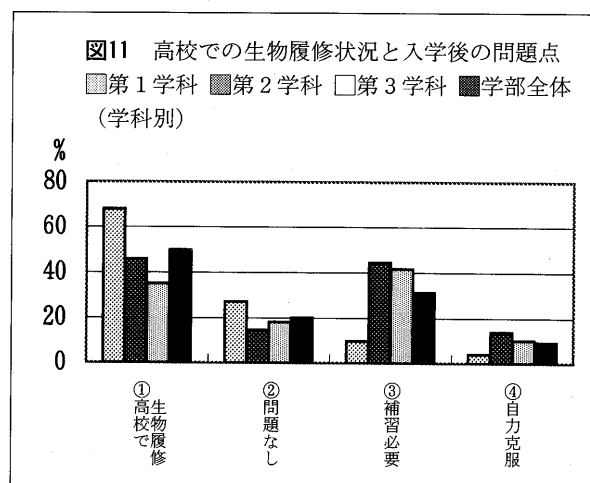
〔物理〕を高校で履修済みの割合はかなり低く、一方、生物系の第1学科も含め、半数以上が補習を望んでいる。第3学科は勿論のこと、各学科とも専門教育を受ける過程でその必要性を痛感しているものと思われる。



〔化学〕を高校で履修した学生は多く、補習教育の希望は30%程度で比較的低い。とはいえ、第2学科においても16%が補習を希望している点は注目される。

〔生物〕では、理科科目の中では化学に次いで高校で履修済みが多く、特に、第1学科では70%であった。なお、高校での履修が40%前後と、低くなっている第2、3学科においても「補習教育が必要」と「自助努力」を併せると60%前後となり、両学科の学生は専門教育の勉学の中で生物の必要を痛感しているものと推測される。しかし、第1学科の未履修30%と補習教育

必要10%との間には20%のギャップがあり、注目される。

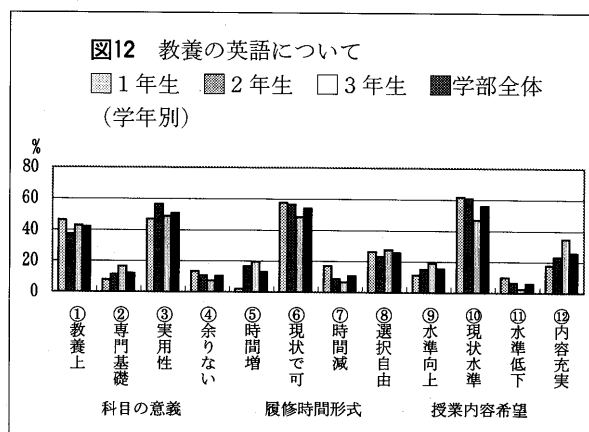


〔地学〕について、高校での履修が5%以下であるが、いずれの学科も、かなりの学生が補習の必要性を訴えている。

以上のように、各教科とも基礎学力の不足を学生自身が訴える結果となった。単に学生の学力不足を嘆くのではなく、改善のための具体的施策（独自の専門基礎教育？）が求められていると考えるべきであろう。

### 3. 教養科目に関する質問の回答結果について

#### 3-1 英語について



ほぼ半数の学生が英語学習の意義を、「教養として（42%）」や「実用性（50%）」に置き、実用性が教養より少し高い値を示したところに、学生の英語に対す

る期待感が込められているようである。履修時間は全体で54%の学生が「現状維持」を希望している。2、3年生では「履修時間を増やす」の希望者が約20%おり、専門分野からの必要性の再認識とも考えられる。回答者の26%が「選択の自由を増す」を選んでいるが、英語の単位数や意義とも関連して考えねばならないだろう。授業内容に関して「現状でよい(56%)」という答がある一方、「レベルを上げる」と「内容の充実」の答を合わせると41%になり、何らかの変化を求めていることは確かである。

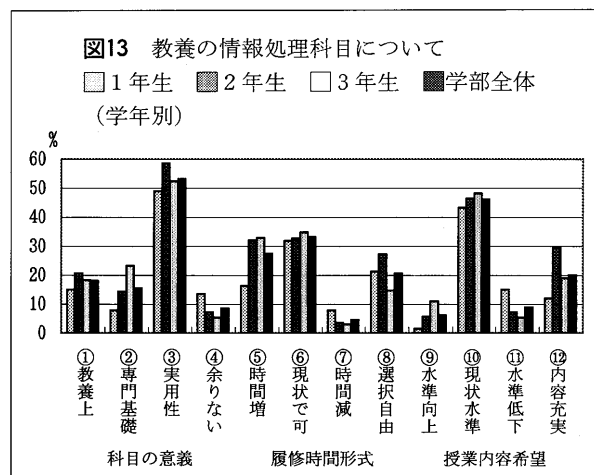
### 3-2 英語以外の語学について

科目の意義に関して「教養として」が45%を占めた。英語の場合と異なり、「実用性」は9%に過ぎない。科目の意義を認めない学生が41%に達していて、第二外国語の履修法を検討すべき段階にあることを示唆していよう。また、「履修時間を減らす(22%)」、「選択の自由を増す(25%)」の回答も多く、学生が意欲を持っているとは思えない傾向がある。

### 3-3 体育実技について

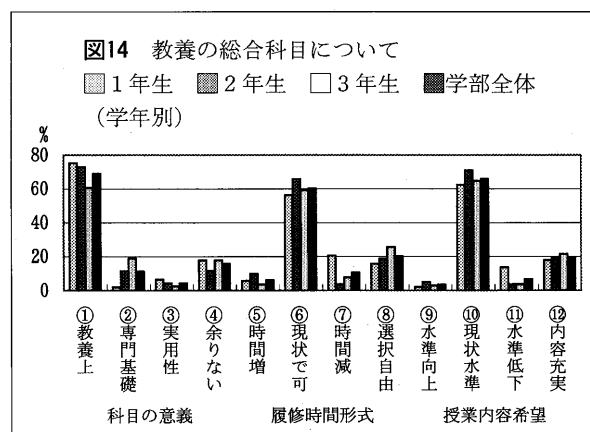
70%の学生が「教養」または「実用」として意義を感じ、「授業内容、履修時間は現状でよい」と答えている。しかし、「あまり意義がない」と感じている学生も27%おり、特に、第2学科では37%に達する。これは「内容の充実(20%)」希望と関連していることも考えられる。

### 3-4 情報処理について



この科目の意義については、「実用性(53%)」、「教養(18%)」、「専門基礎(16%)」と位置づけ、情報処理への期待感が現れている。「履修時間の増加」と「履修時間の現状維持」を合わせると61%となる。そして、「選択の自由(21%)」と「内容の充実(20%)」の希望として反映しているようである。また、高学年になるにつれ、「専門基礎として意義」の考えが増加していることも明らかになっている。

### 3-5 総合科目について



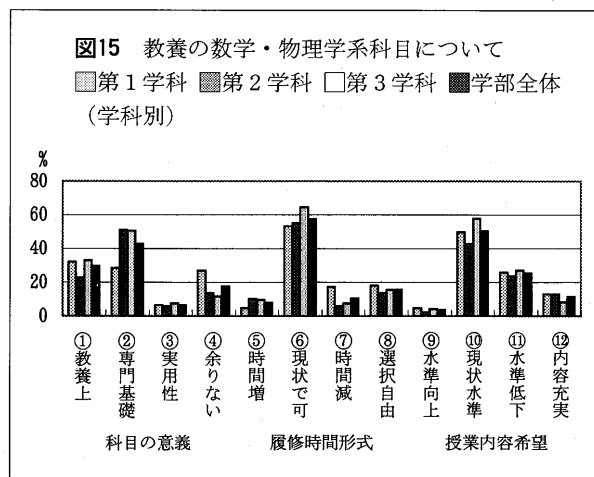
70%が「教養としての意義」を認めている。人文科学や社会科学と同様な傾向である。しかし、学年進行と共に「専門基礎としての意義」の上昇(2→11→19%)が見られることから、自然科学系の総合科目への評価と思われる。また、全体として60~70%の学生が「履修時間および授業レベルは現状でよい」と回答しているが、1年生では「履修時間を減らす(21%)」「授業レベルを下げる(14%)」を希望しており、2、3年生の平均の4倍の値を示す。1年生の前期では、総合科目の特性を理解できていない学生がいることも考慮しなければなるまい。

### 3-6 人文科学および社会科学について

人文科学と社会科学はほぼ類似のパターンを示した。科目の意義は「教養として」が70%、履修時間は「現状でよい」が54~60%、そして授業内容は「現状レベル」が62~64%回答している。特徴的なことは、「あまり意義を感じない」および「履修時間を減らす」を選んだ学生が1年生に多く、それぞれ約30%を示し、

高学年の約2倍の高率であった。教養科目を多く学ぶ時期の学生に、将来の自分の専門に直接つながらない科目を軽視する傾向があるとすれば、今後おおいに検討を要する課題である。

### 3-7 数学・物理学系について

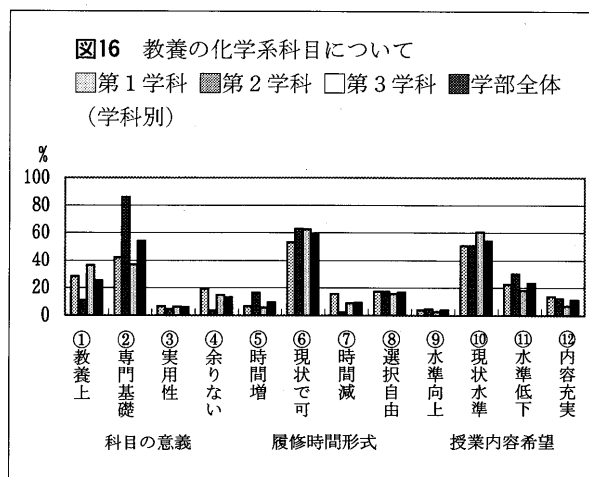


この科目の意義について、学部全体では、「専門基礎として (43%)」が「教養として (29%)」より高い回答割合であり、総合・人文・社会系を「教養として意義がある」と捉えているのとは対照的である。また、「意義なし (18%)」が化学系や生物地学系より幾分高い回答となっている。学科により意義の見方に違いがあり、第1学科では「教養として」と「専門基礎として」とが拮抗しているが、他の二学科では「専門基礎として」の意義を感じる学生が多い。履修時間や授業内容のレベルについては、ほぼ半数の学生が「現状でよい」としているが、「レベルを下げるべき (25%)」が「レベルを上げる (4%)」より遙かに多く、「内容を充実すべき (11%)」と合わせると37%に及ぶことは、数学・物理学系授業を十分理解できていない学生も多いことを示唆する。学年進行につれて専門基礎としての意義を感じる割合が増加し、意義を感じない学生の割合が減少していることは、専門を学ぶ中で数学や物理の必要性を実感しているからであろう。

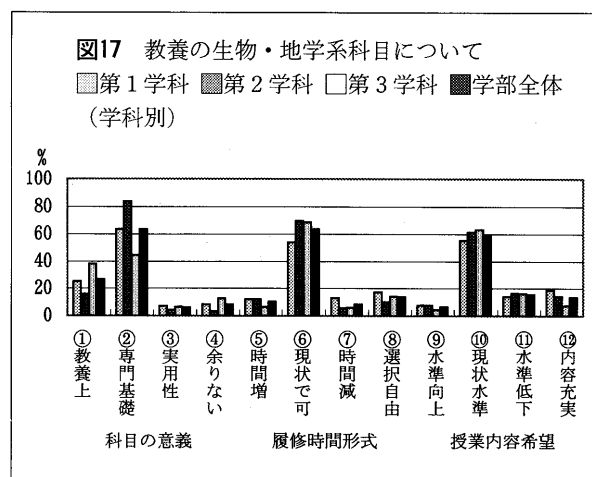
### 3-8 化学系について

学部全体としての意義の所在は、「専門基礎として (54%)」、「教養として (25%)」が高く、「実用性

(6%)」、「意義なし (13%)」は低い。数学物理学系と類似するが、学科による差異はさらに明瞭である。第2学科では86%が「専門基礎として」の意義を認めている。化学を基礎とする学科の特徴を学生自身が自覚しているからと思われる。履修時間については約半数が「現状でよい」としているが、第2学科では「時間を増やす (16%)」希望が多く見られた。授業のレベルでは、数学物理学系と同様に、54%が現状を肯定したが、「レベルを下げるべき (23%)」「内容充実希望 (11%)」が「レベルを上げるべき (4%)」をかなり上回っていた。学年による回答割合の差はほとんどなかった。



### 3-9 生物・地学系について



学部全体では、「専門基礎として (63%)」、「教養として (27%)」の意義を認め、「意義なし (8%)」

を大きく上回り、農学部の特徴を表している。ただし、第1、第2学科の学生が第3学科より専門基礎としての意義を強く感じている。授業時間および内容のレベルは「現状でよい」が比較的多く60%程度を占めた。

### 3-10 自然科学の実験について

第3学科だけが教養科目として自然科学系実験の履修を義務づけているが、その意義については、「教養として（31%）」、「専門基礎として（43%）」と評価している。また、学生実験の時間やそのレベルを「現状でよい」と肯定する者が60%を超えている。

### 3-11 英語の履修状況について

学科、学年を問わず、英語Ⅰa、Ⅰbだけを履修した（または予定の）学生が80%以上を占める。少数ではあるが、Ⅱaも履修が7%、Ⅱbも履修が10%、Ⅲも履修が3%いることから、意欲的な姿勢をみせている。

### 3-12 英語以外の語学の履修状況について

学科、学年による違いがほとんどなく、学部全体で見れば、ドイツ語（61%）、フランス語（14%）、中国語（11%）、ロシア語（7%）、朝鮮語（1%）であった。初級だけを履修したものが大部分で、中級も履修（8%）、英語以外の2ヶ国語履修（4%）は少数派である。「希望とおりの科目を履修」と答えた学生が38%と少なく、また、「希望と異なる語学を履修」が14%存在した。ただし、どちらにも回答していない学生が多数なのは、希望自体が明確でないのかも知れない。

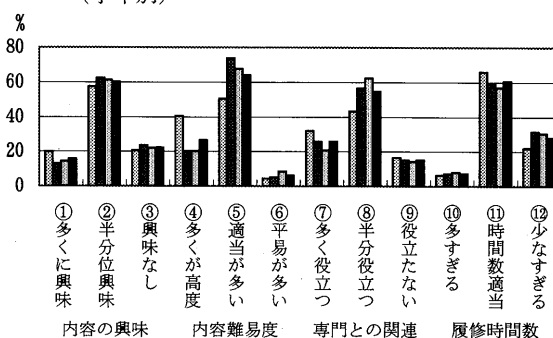
## 4. 専門科目に関する質問の回答結果について

### 4-1 1年生向けの専門科目について

学科別に見ると、第2学科で「履修時間数が少ない」という回答が44%であり、学部全体の28%に比して目立つ。学年別では、「内容の高度のことが多い」という回答が1年生で40%もあり、他学年の20%に比して多い。1年次からの専門科目履修を希望しながらも、実態としては、内容について行けない学生がいることを表していよう。

図18 1年生向け専門科目について

■ 1年生 ■ 2年生 □ 3年生 ■ 学部全体  
(学年別)



### 4-2 必修講義科目について

「内容の難易度」に関して、2年生に「高度なものが多い」と回答した学生が35%あり、1年生の18%、3年生の24%に比してやや目立つ。ただし、1年生の1期では該当科目が少ないこと、3年生では選択科目や実験実習が多いこともあり、必修講義科目の受けとめ方に差があるとも考えられる。

### 4-3 選択必修科目について

「内容の難易度」に関して、2年生に「高度なものが多い」と回答した者が31%あり、1年生9%、3年生24%に比較してやや多い。必修講義科目の場合と同様な背景によると思われる。

### 4-4 選択科目について

学科、学年によって回答に多少のばらつきは見られるが、全体として際立った差異はない。

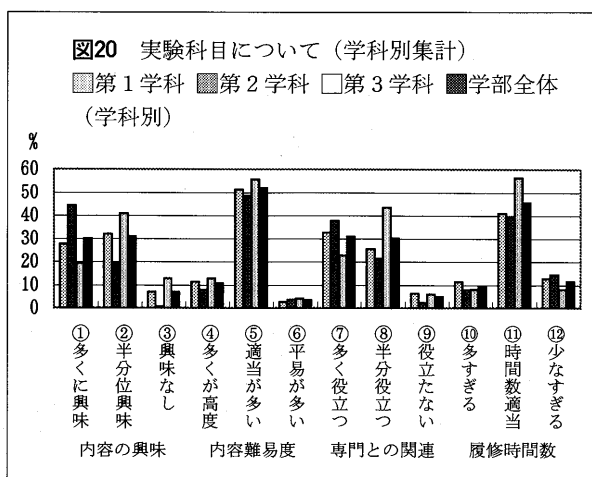
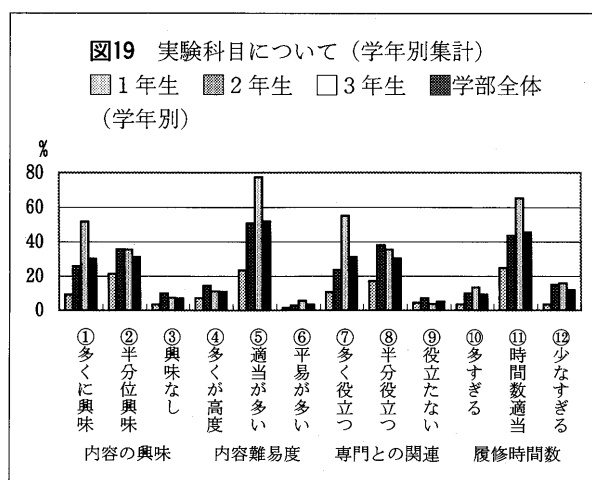
専門科目の必修講義から選択科目の全般について共通していることは、「内容の興味」、「内容の難易度」、「専門との関連性」、「履修時間数」に関する何れの設問に対しても、「興味深いもの半分位」、「適当なものが多い」、「半分くらい役立つ」、「時間数は適当」を選択している割合が抜群に多いことである。すなわち、学科、学年に関わらず、どの選択肢群でも中庸を選択しているものが最も多く、正規分布型を示した。これにはいろいろな解釈法があると思われるが、現行の専門科目は多くの学生に『ほど良く』容認（支持）されているという見方もできる。しかし、科目群の中



には種々多様な授業科目が含まれていることから、回答しにくい面があったことも原因していよう。今後の調査方法に工夫を要する点でもある。

なお、全体的な印象としては、一般入学者と推薦入学者とを比較すると、推薦入学者の方が「多くが興味深い」「多くが専門に役立つ」という回答が多かった。他方で、選択科目については、推薦入学者は「高度なものが多い」という回答に増加傾向が認められた。

#### 4-5 実験科目について



第2学科では「多くが興味深い（44%）」の率が高く、第1学科の28%、第3学科の20%を凌ぐ。特に、実験が多い3年生に限ってみると、第2学科では80%と際立っているのに対し、第3学科では29%に止まっている。「多くが専門に役立つ」と答えた学生を見れば、どの学科でも高学年ほど多くなる。ただし、第2

学科3年で69%、第1学科3年は62%と多いが、第3学科3年は23%と少ない点特徴的である。時間数についてどの学科でも「現状が適当」の回答が多数を占めるが、第2学科3年生では「時間が少なすぎ」の回答が24%もある。総じて、第2学科は実験科目に積極的であるが、第3学科は現状にやや否定的である。

#### 4-6 実習科目について

「多くが興味深い」の回答が第1学科で44%、第3学科25%であり、実習が多い2、3年生で高率を示す。すなわち、第1学科2年が63%、3年が58%である。なお、第2学科では実習科目がないため、統計値に意味がなく、ここでは触れない。時間数については「少なすぎる」の回答が、第1学科2年で18%、3年で24%もあり、特に第1学科の学生は、実習への期待が大きいことを示す。実習内容については、「適当なものが多い」とする現状肯定派が第1学科、第3学科の2、3年生で、いずれも60%を超え、第3学科3年生は86%に達している。

#### 4-7 集中講義について

「興味深いもの半分くらい」が全体で45%と多数派であるが、「多くに興味なし」の回答が第1学科3年に24%、第3学科3年に27%あることが注目される。内容の難易度は「高度なものが多い」とする割合は全体で13%であるが、3年生ではどの学科も約20%と意外に多い。時間数について見ると、全体では「適当」が50%であり、「多すぎる」も「少なすぎる」も9%以下であるが、第1学科3年生だけが「多すぎる」が24%と比較的高い。総じて、どの学科も3年生に批判的な学生がいることが示されている。

#### 4-8 集中実習について

集中実習が2、3年生向けに行われているので、この対象学生の回答に注目するならば、他の科目に比べ、「多くが興味深い」と答えた学生が多数を占めたことが特徴的である。中でも、第1学科3年は46%、第2学科の56%は注目に値する。第3学科3年はやや少なく24%であるが、「興味深いもの半分位」も合わせる

と、どの学科でも3年生は70～80％に達している。時間数について、「多すぎる」がどの学科とも0であるのに対し、「少なすぎる」が第2学科3年生で43％の高率を示している。総じて、集中実習には充実感があり、第2学科には期待感があるように見受けられる。

## 5. 自由意見について

教養および専門のカリキュラムに関して自由な記述を求めたところ、回答者の47％が何らかの意見を書いている。上述のアンケート回答の分析で見た結果と同様な内容も多いが、今後のカリキュラム改正に資すると思われる事項を、各学年の履修段階別に整理・要約して以下に紹介する。

1年生の時代には、専門学習の意欲を持って入学したことを理由に、専門教育の早期履修を要望している。その裏返しとして、現在履修中の教養教育に関心が薄い傾向がうかがえる。特に人文社会科学の履修意義を理解できないようである。そして、科目群毎の履修単位数指定の意義に疑問を持つと同時に、高学年でも教養科目がもっと自由に選択できることを望んでいる。また、抽選によって聴講者を決定するケースに対しては強い不満を表明している。

2年生の段階では、実験実習に早く取り組みたいと願っている。必修の講義が多く、自由度が少ないことに不満がある。また、他学科の講義聴講も希望しており、単位認定と時間割の工夫を要望している。さらに、語学履修時間の学部指定があるため、専門科目との競合が生じる点、2期の午後に開設されている講義が極めて少ない点についての改善要求がある。

3年生では、実験実習の意義を大いに認めながらも、講義との連携が取れていないことを指摘し、2年からの実験開始要求が強い。また、教養課程を廃止しながら、専門と教養の枠が外されていないこと、5学科を3学科制にして、逆に履修の自由が損なわれていることから、改組に疑問を呈する者もいる。

## 6. おわりに

このアンケートは学生の意識調査であり、要望など

を直接カリキュラム改正に反映できるものでないが、問題点の所在を見極め、今後の改正に向けての検討材料としては極めて有用である。一方、1～3年生の87％の回答結果は現行カリキュラムの下での履修生全員の意向であると思なせる貴重なデータであるが、1年生の専門科目についての意見は具体性のない面もあることに留意したい。

以上の観点から、カリキュラム改善に参考となる事項をまとめると以下の通りである。

**a.** 入学に際しては約2/3の学生が専門知識の修得を期待し、1/3が楽しい学生生活を願望していたが、入学後には全体の2/3の学生が授業内容および施設の両面で失望している。この傾向は低学年ほど強い。

**b.** 教養科目を学ぶ意義は、良識ある社会人の養成にあると自覚し、現在の履修法、時間数、授業内容を肯定する者が約半数を占めるが、他方で、専門に関係しない科目についての意義については懐疑的な面もあり、低学年ほど専門科目の早期履修を期待している。

**c.** 自然科学系の教養科目は専門基礎と位置付けているものが多い。高校では化学、生物を履修した学生が多いが、履修していない学生は大学での補習面を期待している。学年が進むと、数学、物理、地学の基礎学力の必要性を感じている。また、英語の実力不足を自覚し、英語科目の充実を期待しているが、その他の語学の学習意欲は希薄である。

**d.** 専門科目を学び始めると、カリキュラムが必ずしも体系立っていないという不満が学年と共に増加する。その割合が学科により異なるのは、各学科のカリキュラムの編成実態を反映しているからであろう。

**e.** 専門科目の内容が高度であると感じている者は低学年ほど多い。高学年では、特に実験実習に充実感を持っているが、学科の実情により、その程度に差が認められる。講義全般については総じて現状肯定の見方が多い。

**f.** 履修科目の選択基準は、教養科目、専門科目とも、科目内容を自分で判断して決めている者が多数である。専門では、ガイダンスに従う率が増えるが、必ずしも分かり易くないとの意見も多い。

**g.** 履修単位数は現行で妥当とする意見が多いものの、教養科目での科目群の枠指定を見直すこと、専門科目

での選択に自由度を多くすることの要望が目立つ。

h. 推薦入学者の特徴として、専門への期待感が強く、内容に興味を持っているが、レベルが高度であると感じている傾向がうかがえる。

研究センター、企画室教務係及び農学部学務係の教職員の手を煩わせた。記して謝意を表したい。

新潟大学農学部教育検討委員会

【謝辞】

本アンケートの実施と分析には多くの方々の協力を得た。特に、農学部の竹内公男教授には統計解析および作図に際してご尽力を頂いた。また、大学教育開発

伊東 睦泰	伊藤 忠雄
仲川 洋治	大山 卓爾
豊田 勝	

## カリキュラム改善のためのアンケート

平成7年9月  
農学部教育検討委員会

新潟大学では教育改善のための検討を進め、平成5年から新カリキュラムによる授業を開始し、平成6年には教養部を廃止して、全学を上げて教養教育に当たることとしました。農学部では教養と専門教育を通した一貫教育を充実させるために、教育検討委員会を設けてカリキュラム改善の検討を行っています。このアンケートはその一環としてみなさんの意見を聞くものです。

選択肢の中から適当なものを選び、マークシートの該当欄の○を鉛筆で塗りつぶして下さい。複数の選択肢を選んでも結構です。また、特に意見や感想がない場合や該当しない場合には、その質問に答える必要はありませんので、マークしないで置いて下さい。自由な意見は回答用紙裏面に記述願います。

### I 全般的な質問です。

a. 所属学科と学年を教えてください。また、推薦入学者は⑦をマークして下さい。

①農業生産科学科 ②応用生物化学科 ③生産環境科学科 ④1年 ⑤2年 ⑥3年 ⑦推薦入学

b. 入学時には大学へ何を期待していましたか。

①専門知識の習得 ②広い教養の習得 ③就職に有利な勉強 ④楽しい学生生活 ⑤特になし

c. 入学時の期待は満たされていますか。

c-1 授業内容 : ①期待以上に充実 ②期待どおり ③やや期待はずれ ④期待はずれ

c-2 施設・設備 : ①期待以上に充実 ②期待どおり ③やや期待はずれ ④期待はずれ

d. 一般的に教養科目を学ぶ意義はどこにあると思いますか。

①専門の基礎として重要 ②社会人としての教養と知性を養う ③専門外の概論を学ぶ  
④総合的判断能力を養う ⑤高校教育を補完する ⑥その他

e. 教養と専門の関係はどうあるべきだと思いますか

①基礎と応用の関係があるべき ②教養は専門と直接関連しなくてよい  
③教養終了後に専門を学んだ方がよい ④最初から専門も学ぶべき ⑤教養の割合を増すべき  
⑥教養と専門は現状の割合でよい ⑦専門の割合を増すべき

f. 専門科目のカリキュラムは体系立っていると思いますか。

①体系的でよい ②講義と実験実習の連携不足 ③科目間の調整不良 ④履修順序が不適切

g. 教養科目の中の選択科目をどのように決めましたか。

判断の手段: ①自分の考えで ②ガイダンスに従って ③先輩や友人の助言によって

判断の基準: ④内容に興味ある ⑤専門の基礎として必要 ⑥単位が取り易い ⑦講師に魅力  
⑧基礎知識あるので勉強しやすい ⑨抽選もれ等でやむなく

h. 専門科目の中の選択科目をどのように決めましたか。

判断の手段: ①自分の考えで ②ガイダンスに従って ③先輩や友人の助言によって

判断の基準: ④内容に興味ある ⑤専門として必要 ⑥単位が取り易い ⑦講師に魅力  
⑧基礎知識あるので勉強しやすい ⑨やむなく

i. ガイダンスや講義概要の説明は適切と思いますか。

i-1 教養科目 : ①現状で理解できる ②分かりにくい ③科目選択に悩む ④履修相談を希望

i-2 専門科目 : ①現状で理解できる ②分かりにくい ③科目選択に悩む ④履修相談を希望

j. 履修単位数についてどう思いますか。

j-1 教養科目 : ①単位数が多すぎる ②単位数は現状で適当 ③単位数を増やした方がよい  
④科目群毎に最低単位数を規定すべき ⑤科目群で規定しないでよい

j-2 専門科目 : ①単位数が多すぎる ②単位数は現状で適当 ③単位数を増やした方がよい  
④選択の自由度が少ない ⑤選択の自由度は適当 ⑥選択の自由度が多すぎる

k. あなたの高校での履修状況と、入学後の問題について、どのように思いますか。

- k-1 英語 : ①入学前に十分勉強した ②特別な問題なし ③補習教育が必要 ④自助努力で克服  
k-2 数学 : ①微分積分を履修済み ②特別な問題なし ③補習教育が必要 ④自助努力で克服  
k-3 物理 : ①高校の物理を履修済み ②特別な問題なし ③補習教育が必要 ④自助努力で克服  
k-4 化学 : ①高校の化学を履修済み ②特別な問題なし ③補習教育が必要 ④自助努力で克服  
k-5 生物 : ①高校の生物を履修済み ②特別な問題なし ③補習教育が必要 ④自助努力で克服  
k-6 地学 : ①高校の地学を履修済み ②特別な問題なし ③補習教育が必要 ④自助努力で克服

## II 教養科目についての質問です。

左側のa～kの科目群についての意見を、右側の①～⑫の選択肢群から選んで下さい。

- | (科目群)       | (選択肢群)                  |
|-------------|-------------------------|
| a. 英語       | ア. 科目の意義に関する選択肢         |
| b. 英語以外の外国語 | ①教養として意義ある ②専門基礎として意義ある |
| c. 体育実技     | ③実用性から意義ある ④あまり意義ない     |
| d. 情報処理     |                         |
| e. 総合科目     | イ. 履修形式に関する選択肢          |
| f. 人文科学     | ⑤履修時間を増やす ⑥履修時間は現状でよい   |
| g. 社会科学     | ⑦履修時間を減らす ⑧選択の自由を増す     |
| h. 数学・物理学系  |                         |
| i. 化学系      | ウ. 授業内容に関する選択肢          |
| j. 生物学・地学系  | ⑨レベルを上げるべき ⑩現状のレベルでよい   |
| k. 自然科学の実験  | ⑪レベルを下げるべき ⑫内容を充実すべき    |

l. 英語の履修状況はどうですか。履修予定も含めて答えて下さい。

- ①I a、I bだけ履修 ②II aも履修 ③II bも履修 ④IIIも履修

m. 英語以外の外国語の履修状況を、予定も含めて答えて下さい。

- ①ドイツ語を履修 ②フランス語を履修 ③ロシア語を履修 ④中国語を履修 ⑤朝鮮語を履修  
⑥初級だけ履修 ⑦中級も履修 ⑧英語の他に2か国語以上を履修  
⑨希望とおりの語学を履修 ⑩希望と異なる語学を履修

## III 専門科目についての質問です。

左側のa～hの科目群について、右側の①～⑫の選択肢群から選んで下さい。

- | (科目群)        | (選択肢群)                        |
|--------------|-------------------------------|
| a. 1年生向け専門科目 | ア. 内容の興味に関する選択肢               |
| b. 必修講義科目    | ①多くが興味深い ②興味深いもの半分位 ③多くに興味なし  |
| c. 選択必修科目    | イ. 内容の難易度に関する選択肢              |
| d. 選択科目      | ④高度なものが多い ⑤適当なものが多い ⑥平易なものが多い |
| e. 実験科目      | ウ. 自分の専門との関連性の選択肢             |
| f. 実習科目      | ⑦多くが専門に役立つ ⑧半分位役立つ ⑨あまり役立たない  |
| g. 集中講義      | エ. 履修時間数に関する選択肢               |
| h. 集中実習      | ⑩時間が多すぎる ⑪時間数は適当 ⑫時間が少なすぎる    |

## IV 自由な記述です。

教養および専門のカリキュラムに関して、自由な意見や感想を回答用紙の裏面に書いて下さい。